

猪風来  
片桐仁  
竹谷隆之  
GOMA...

2015年1月4日(日)~18日(日) 11:00~20:00  
表参道Spiral Garden  
107-0062 東京都港区南青山5-6-23  
主催: 青森県/NPO法人jomonism  
aomori-jomon.jp jomonism.org

## 縄文アートが表参道スパイラルに集結!

2013年にニューヨークとパリ、2014年には青森県立美術館で開催され、好評を博した縄文アートの展覧会 ARTs of JOMONが新年を迎えればかりの東京で開催されます。縄文野焼き技法の第一人者の猪風来や、俳優の片桐仁のほか、今回初登場となる造形家の竹谷隆之、記憶を失ってからプリミティブな点描画を描きはじめたディジュリドウ奏者のGOMAなど、縄文に共鳴するアーティストが集結し、それぞれの手法で縄文的世界観を披露。2015年の幕開けをパワーあふれる縄文アートが彩ります。



### 出展アーティスト(50音順)

猪風来(縄文野焼き作家)

we+(林登志也・安藤北斗)+高橋昂也(映像作家)

大森準平(陶芸家)

大藪龍二郎(陶芸家)

片桐仁(俳優)

金理有(陶芸家)

小林武人(3DCGデザイナー)

GOMA(ディジュリドウアーティスト・画家)

坂巻善徳 a.k.a. sense(美術家)

篠崎裕美子(陶芸家)

渋谷忠臣(アーティスト)

竹谷隆之(造形作家)

堀江武史(修復家)

丸岡和吾(髑髏作家)

村上原野(陶芸家)

結城幸司(版画家・彫刻家)

ARTs of JOMON in TOKYOへのお問合せは  
下記メールアドレスまでお気軽にどうぞ。

▶▶NPO法人jomonism  
jomonism.org@gmail.com

## CONCEPT



2015年1月4日(日)～18日(日) 11:00～20:00

表参道Spiral Garden

107-0062 東京都港区南青山5-6-23

主催：青森県／NPO法人jomonism

aomori-jomon.jp jomonism.org

## N.Y、パリ、青森県立美術館、 パワーあふれる縄文アートが東京で始動

日本列島の文化の基礎が作られた縄文時代。最終氷河期の終わりから1万年以上もの長い間、狩猟採集をしながら自然と共生した人びとが残した土器や土偶は、用を超えた美を備え、高度に抽象化された造形のものも多く、日本列島の「もの作り」が高いアート心から始まったことを示唆します。

なぜそのような造形に至ったのでしょうか？ わたしたちNPO法人jomonismではその答えが、アニミズムの精神性にあるのではないかと考えています。森羅万象に神や精霊が宿り、人間もまた自然の一部であるという認識の中で、日本人は古来より巨石や巨木をはじめ人間を取り巻く自然自体を信仰の対象にしてきました。食べ物をくれる自然に感謝し、必要な分だけとり、豊饒を祈り、多産を願う。文様に埋め尽くされた土器や土偶からは自然の循環の中で生きた人びとの豊かな感性が感じられるからです。

そして、その感覚は現代の日本人の中にも脈々と流れていると、私たちは考えています。自然と共生する文化はもちろん、日本人独特の「もったいない」という感覚、厄よけやお祓い、故障した人工衛星に対して祈り続ける気持ち、ロボットにヒューマノイドを求めてしまう心理…。縄文のアニミズム感覚は、わたしたちの日常生活からサブカルチャー、先端科学技術に至るまで、意識すること無く当たり前のように息づいているのです。

そのような縄文時代から続く精神性や価値観に共感した15組の現代アーティストが一堂に会する展覧会 ARTs of JOMON in TOKYO を、新年早々の表参道Spiral Gardenで開催します。2013年のニューヨークhpgrp ギャラリーを皮切りに、ジャパンエキスポ、2014年2月の青森県立美術館と、巡回ごとにパワーアップしてきた内容は、絵画、陶芸、立体造形、ペインティング、3DCG…と手法もさまざま。東京もかつては縄文人が暮らす土地でした。幾重にも重なる歴史のレイヤーから太古の記憶をアートの力を使って呼び起こしましょう。縄文と現代が結びついた時、そこにポストモダンなアイデンティティが生まれます。今も息づく縄文アートの息吹を感じてみませんか。



## COMMENT



### "ARTs of JOMON によせて"

現代社会は、便利であることが何よりも優先され、それがゆえに効率的に物事が考えられます。地球規模での急激な人口の増加を考えれば、それが人間の知恵であることは間違いありません。しかしそれが加速することによって、環境も急激に変化し、エネルギーや食料など様々な問題が浮上し、地球上で人がこれからどれだけ生き延びていけるだろうかという、人類はもっと根本的な問題を抱えることになりました。とうぜん心ある人は、このまま先へ進んで本当にいいのだろうかという疑問を持つことになります。このような時代に10000年以上続いた縄文という時代に興味を抱く人が出てくるのは、ある意味、必然と言えるでしょう。なぜこんなにも永くこの時代は続いたのか。そこに、これから人類が生き延びるためのヒントがあるのではないか。これがARTs of JOMONに参加するアーティストが共有している感覚ではないかと思います。そして私自身も、計り知れない力を縄文に感じています。

グラフィックデザイナー 佐藤 卓

佐藤 卓氏

グラフィックデザイナー

1979年東京藝術大学デザイン科卒業、同大学院修了。株式会社電通を経て、1984年佐藤卓デザイン事務所設立。「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」等の商品デザイン、美術館のシンボルマークデザイン、企業のロゴ、ブランディングを手掛ける。また、NHK Eテレ「デザインあ」の総合指導や21\_21 DESIGN SIGHTのディレクターも務めるなど、多岐にわたって活動。

# MESSAGE

## 縄文

古の縄文の時代から人々は  
生命 生きることへの喜び  
自分より遥かに大きな力を持った自然への畏怖の念  
亡くなっていった人々への想い  
獲物となり 食料になってくれる動物・植物たちへの感謝の念  
それらの想い 祈りを土器や土偶に込めてきた  
何物にも縛られない自由な創造物たち  
想いと一体となった造形物の“美”は何千年という時がすぎても  
失われることはない

## アニミズム

時は流れ現代の日本  
マテリアルにメンタルが押しつぶされ 喘いでいる現代  
そんな時代においても縄文の精神は廃れてはいない  
古くなったモノをもったいないと思う気持ち  
大樹に触れた時の安心感  
大地を踏みしめ踊る感覚  
僕らの心の底流にはそうした感覚がれっきとして残っている

## コンテンポラリー

縄文の精神・カタチは様々に形を変えながら  
現代アーティストの作品として表出している  
サブカルチャやポップカルチャと結び付き  
陶芸と結びつき  
絵画と結びつき  
増殖し 分裂し 結合し  
破壊され 再生し  
互いに影響を与えながら  
リズムを刻み  
進化・深化を止めることがない  
このフュージョンこそ  
“JOMON”  
“ジャパニーズ”の“コンテンポラリー”

## 円環

「縄文」は太古のことだけを意味するのではない  
今を生きる僕らの中に息づき  
そして 未来へと続いていく  
古くて新しく  
過去と未来を繋ぎ循環し続ける  
大きな円環なのである



ARTs of JOMONキュレーター  
NPO法人jomonism代表  
小林武人  
Taketo Kobayashi

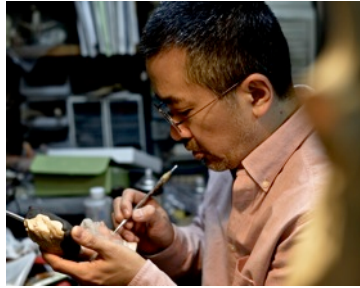
3DCGデザイナー。縄文遺跡の多い山梨県出身。縄文由来の造形力で最新技術を駆使し、太古と未来を繋ぐ大きな円環をモチーフにしたアニメーションや3Dプリント作品を制作。

# ARTIST



## 猪風来 IFURAI

1947年広島県出身。縄文野焼き技法の第一人者。渦巻き文様がダイナミックに躍動する野焼きスパイラルアート作品を多数創作。新見市猪風来美術館館長。



## 竹谷隆之 Takayuki Takeya

造形家。映画、玩具、フィギュアなど様々な領域で活躍。2012年の『館長庵野秀明 特撮博物館』で上映された『巨神兵』のコンセプトモデルも話題に。



## 片桐仁 Jin Katagiri

1973年埼玉県出身。ラーメンズ・俳優として活動の傍ら作り続けた造形物の数々をまとめた『粘土道2』も講談社より発売中。今回は土偶4部作をお披露目！



## GOMA

ディジリッドウ奏者として活躍。09年交通事故で高次脳機能障害となり点描画を描き始める。2012年には自身を主人公とする映画「フラッシュバックメモリーズ3D」が公開。



## 大森準平 Junpei Omori

1979年名古屋生まれ。陶芸家。抽象的な黒陶からポップな縄文シリーズなど幅広く展開。NYの美術館に作品が所蔵されるなど海外での評価も高い。



## 金理有 Riyoo Kim

陶芸アーティスト。ストリートカルチャーの影響を受ける一方、青銅器や縄文土器など古代の器や祭器に惹かれ、魂を宿したかのような神秘的な陶表現を追求。



## 大藪 龍二郎 Ryujiro Oyabu

陶芸家。東京都出身。写真家星野道夫と出会い、野生の力と地球の織り成す自然に感銘を受け、土と炎を使い自然界の不思議な力に真の美を探求している。



## WE+ 林登志也+安藤北斗

Toshiya Hayashi+Hokuto Ando  
グラフィック、プロダクト、インタラクティブ等幅広く活動。2014年のミラノサローネ出展作品はミラノデザインウィーク2014のベストワークのひとつに選ばれている。



## 高橋昂也 Koya Takahashi

1985年愛知県生まれ。映像作家。緻密な描画と独自の技法で民俗、宗教、神話性、土着の世界認識を基板とした表現を試みる。

# ARTIST



**小林武人 Taketo Kobayashi**  
山梨県出身。3DCGデザイナー。  
縄文由来の造形力で最新技術  
を駆使し、太古と未来を繋ぐ大き  
な円環をモチーフにしたアニメー  
ションや3Dプリント作品を制作。



**坂巻善徳**  
a.k.a. SENSE Yoshinori Sakamaki  
美術作家・ライブペインター。  
即興的に「カタチ」を増殖させて  
いく描法でストリート有機的とも  
機械的ともいえる造形を出現。  
海外でも活動の場を広げている。



**澁谷忠臣 Tadaomi Shibuya**  
1973生まれ。ロボットアニメとプ  
ロダクトデザイン、HIPHOPの影  
響により、直線と面分割で対象  
を再構築する画風を確立。海外  
でも高い評価を得ているアー  
ティスト・イラストレーター。



**結城幸司 Koji Yuki**  
版画家・彫刻家・ミュージ  
シャン・運動家。アイヌの音  
楽・舞踏・手仕事などを伝え  
るアイヌアートプロジェクト  
のリーダーでも。



**堀江武史 Takeshi Horie**  
修復家としての膨大な知識とコ  
ンテンポラリーな視点で、縄文文  
化の魅力を伝えるアート作品を  
制作。全国の博物館を中心に企  
画展を行なっている。



**篠崎裕美子 Yumiko Shinozaki**  
陶芸家。ビートニクの影響という  
セラミックに原色を使った装飾を  
施す呪術的な造形が特徴。リズ  
ムを刻むような点描と鑄(しの  
ぎ)は縄文の造形に通じる。



**丸岡和吾 Kazumichi Maruoka**  
髑髏や骨に特化した造形作家。  
焼き物からファッションまで活動  
範囲は多岐に渡る。その造形力  
を遺憾なく発揮した茶道具など  
は既に引く手数多。



**村上原野 Genya Murakami**  
陶芸家。1987年北海道生まれ。  
猪風来に師事し、縄文造形を徹  
底的に模写。「現代に生きる己  
の縄文の感性」を独自の縄文造  
形に込めて、躍動感あふれる土  
器やオブジェを創作。

PHOTO



2014年青森県立美術館コミュニティギャラリーで開催された ARTs of JOMONの様子  
撮影: 廣川慶明



PHOTO

